

7月18日終業式講話 ～' 学び・考える夏' にするために～

今日は、いよいよ終業式となりました。1学期間、目標をもって頑張れたでしょうか。

ところで、阿佐谷駅の近くに杉並第六小学校という小学校があります。

その小学校の校庭の真ん中に、大きなかしの木がそびえ立っています。校庭の真ん中に大きな木がある。普通に考えれば、授業をするにも、遊ぶにも邪魔に思えてしまいます。

なぜ、そんな木が校庭の真ん中に立っているか。今から81年前の1945年5月、戦争による空襲で杉六小の校舎はすべて燃えてしまいました。でも、その木だけは、焼け残ったそうです。そんな歴史を知れば、邪魔な木ではなく、「大切にしなければいけない木」であると思えるようになります。

毎回、1学期の終業式では、夏休み中の忘れてはいけない日についてお話をしています。それは、8月6日、9日、15日です。いずれも戦争に関係があります。高四小も戦争中には、空襲により校舎が全焼してしまったという歴史があります。

4月6日の始業式では、「学校生活のあ・い・う・え・お」についてお話をしました。これは、いい学校、いい学年、いい学級を自分たちでつくっていく第一歩であるとともに、平和な社会をつくる第一歩でもあると思っています。自分の言動は、どうだったでしょうか。

校庭にある木一本でも、それにまつわる歴史を知ること、ものの見方や考え方が変わります。どんな小さなことでも、「あれ、どうして」「なぜだろう」という疑問を持つことが大事です。

これから、長い休みに入ります。多くの本を読んだり、普段行くことができない場所に行き、普段できない経験や体験を積んだり、たくさんの様々な人と出会う機会を大事にして、ものの見方や考え方を広げる夏にしてください。その時間の使い方は、自分次第です。そこでの学びが、いい学校や平和な社会をつくる力につながります。

元気に夏休みを過ごしてください。これで、お話を終わります。